

由布市の文化財



1 大科社の大スギ
大科社の境内にあるこのスギの胸高幹周は11メートル、高さは35メートル以上を測り、樹齢は1000年以上といわれる立派な杉で、何回か火災に見舞われてきましたが樹勢は衰えることなく、地域の誇りとして次世代に守り伝えていくため、地域ぐるみで保護にとりかかっています。昭和9年8月に国指定天然記念物となりました。



2 旧日野医院
明治27(1894)年、日野藩によって建てられた擬洋風建築です。この時期の病院・病棟がそろうて残っているのは全国でもとても珍しく、大変貴重なものです。平成7年の大修理を経て平成11年12月、国指定重要文化財となりました。



3 絹本着色放牛光林像
放牛光林は文保2(1318)年に入元し、帰朝後、京都の建仁寺・天龍寺・南禅寺などに住持した禅僧です。臨済宗夢窓派の発展に大きく寄与した絶海中津も、建仁寺時代の放牛光林の下に参っています。縦100.2cm、横50.4cmの絹地に描かれたこの絵画は、放牛光林の風貌などがよく表現されています。



4 由布院キリシタン墓群
中世末期の湯布院地方はキリスト教徒が多く、キリシタン墓と思われるものが今でも400基以上確認でき、このうち60件が指定されています。



7 由布川峡谷
由布川火砕流を浸食し形成された峡谷で、高さ30mにも及び絶壁や岩肌を伝う40数余もの滝があり、驚異的な景観美を作り出しています。



10 笠塔婆
総高2.10mを測ります。不動明王の種子が表現力豊かに力強く彫られています。下方に応安元(1368)年の銘が確認できます。



14 祖霊廟宝塔(二基)
五ヶ瀬の安養寺にあったものを移築したといわれており、左側の完全なものは、総高235cmを測ります。



17 18 狭間氏五輪塔群
南北朝期から室町時代末期までの20基以上の五輪塔群(史跡)。康永2(1343)年銘のあるものを含む3基は有形文化財としても指定。



22 若杉のケヤキ
樹高17m、胸高幹周810cm、枝張り南北20mの古木です。木目が美しいので、建築用材として古くから尊ばれている樹木です。



5 佛光寺六地藏石幢
佛光寺の境内にあり、総高165cmを測ります。塔身に大永4(1524)年の銘があり、室町時代の作であることがわかります。



8 板碑
総高2.27m、幅64cm、厚さ35cmを測る大きな板碑で、両面に梵字が刻まれています。室町時代の作と考えられます。



11 宝塔(二基)
双子のように並んでいる宝塔は総高1.74m。左側のものに建武3(1336)年を表す銘文があり、室町時代の作であることが判ります。



15 オタニの車橋
単一アーチの石橋で、19世紀中頃に架橋されました。路面を広くする為の工夫が見られ、どっしりとした安定感があります。



19 北原石造無縫塔
重刻の無縫塔で正長2(1429)年の銘が確認できます。狭間地区鬼崎の馬見塚家の始祖、馬見塚左馬介正国との墓と伝えられています。



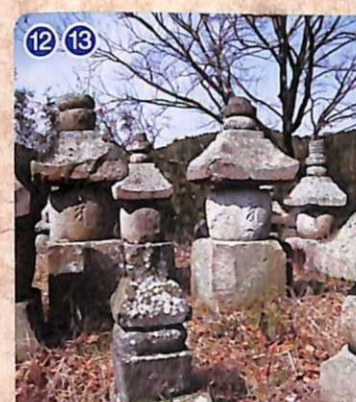
24 嶽雲庵の六地藏
性空上人が岩窟に観音を安置したことに始まる嶽雲庵。『嶽雲庵縁起』に文明4(1472)年に六地藏が建立されたと記されています。



6 岳本のコナラ原生林
コナラを中心とした原生林ですが、人里にこれほど近いにもかかわらず伐採もされずに自然状態を保っているのはとても貴重な存在です。



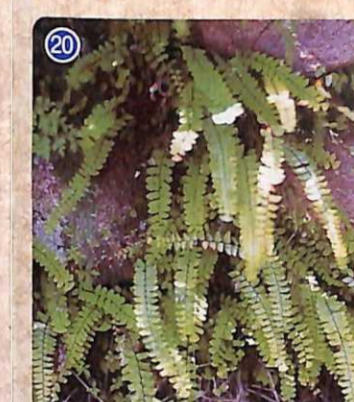
9 石幢
総高1.65mの石幢で、平に文明18(1486)年の銘があります。笠は柔和な曲線がかたどられ、軒口は垂木状に仕上げられています。



12 13 宝塔及び五輪塔群
南北朝期を中心とする総計50基を数える石塔群(史跡)。文和2(1353)年銘のある宝塔・五輪塔計7基は有形文化財としても指定。



16 慈航寺石造宝塔
慈航寺の境内にある宝塔で、元徳2(1330)年の銘があります。相輪の上部を欠損していますが、重厚で端正な趣きは失っていません。



20 内成・田代のオトメクジャク
オトメクジャクはミズワラビ科のシダ類で日本では由布市狭間地区と宇佐市安心院町の2箇所しか生息が確認されていない希少植物です。



27 佛山寺のツバキ
樹高9m、胸高幹周98cm、枝張り東西12mを測ります。花弁が一枚一枚離れて散る「五色八重散桐」の変異種と見られる貴重なものです。



29 香椎荘の宝塔
総高2.2mで、南北朝時代の磨崖3(1340)年の銘が残ります。元は庄内町東重宝にあったものを昭和19年に現在地に移転したものです。



33 西蓮寺のフジ
樹高3m、幹周りは5本合わせて280cm、枝張り東西13mです。本堂南側に位置し、開花の時期には遠方からも多くの見物客が訪れます。



40 木造阿彌陀如来像及び観音・勢至菩薩立像
中央は阿彌陀如来で高さ103.7cm。平安時代の作とされています。脇侍の観音像は高さ51.2cm、勢至菩薩は高さ51.2cmを測ります。



43 天満洲神社の鉦口
鐘座に八葉蓮華文、中区に蓮華文、銘帯に24箇の珠文と2頭の子唐獅子を配すなど意匠に優れ、寛政6(1794)年の銘文があります。



46 摺原の宝篋印塔
総高165cmを測り、応永16(1409)年の銘が確認できます。塔身の4面には金剛界四仏の種子が彫られています。



49 小狭間山神社のクロガネモチ
樹高15m、胸高幹周245cm、枝張り東西14mを測ります。この種の樹木はあまり大きくならないので、これだけ大きなものは珍しく貴重です。



52 大分川の立木炭化木及び火砕流
60万年前、この地域を火砕流が襲いその際に埋没した木々が炭化して残存しています。河床一面にその火砕流堆積物が広がっています。



55 皇産霊神社参道 石畳・石段
石畳は幅1.64m、総延長106.6mを測ります。スガメ石という石材を素材とし、建設された年代ははっきりしませんが、中世頃と思われる。



31 佛光寺のイチヨウ
樹高26.5m、胸高幹周533cmとイチヨウとしては大木です。イチヨウは「生きた化石」とも呼ばれます。



36 湯平山神社のウラジロガシ
樹高18m、胸高幹周305cm、枝張り東西16mを測ります。古木で大きく、また美しい容姿をも兼ね備えています。



41 浄水寺の石幢
総高191cmで、空の内割が市内に普遍的に見られるものと比べて高く、形態的に異なった様相を示しています。



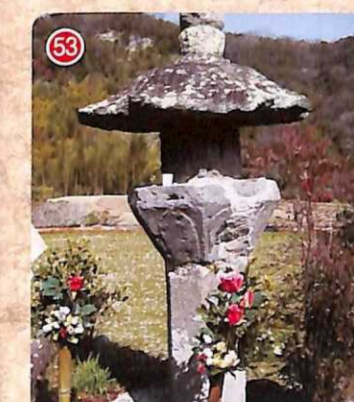
44 天満洲神社の十一面観音像
元禄8(1695)年に奉納された仏像で、台座を合わせた高さは60cmです。袂の寄木造りで玉入れのきらびやかな作風です。



47 高岡のキリシタン墓
一見、通常の宝塔のように思えますが、塔身などにこっそり十字が刻まれています。寛永5(1628)年の銘が確認できるものもあります。



50 東大津留の宝塔二基
戦国時代末期の松ヶ尾城主大津留鎮益とその妻の墓とされています。文禄5(1596)年の宝篋印塔、天正19(1591)年の宝塔です。



53 中畑石幢
総高2mの石幢で中台が重厚なつくりとなっていてのが特徴的です。横柱に明応6(1497)年の銘があります。



56 海老毛横穴古墳群
6世紀から7世紀頃に造られた横穴古墳群です。副葬品などは確認されていませんが、この形式の古墳は市内で唯一確認できるものです。



32 山崎愛宕様のムクロジとタブノキ
ムクロジとタブノキが根元で自然に結合しています。ムクロジは樹高22.9m、タブノキは樹高18.8mを測ります。



37 湯平田伏のスギ
樹高35m、胸高幹周635m、枝張り南北17mを測ります。若い頃に主幹が折れたためか、自然に台杉のような形態をしています。



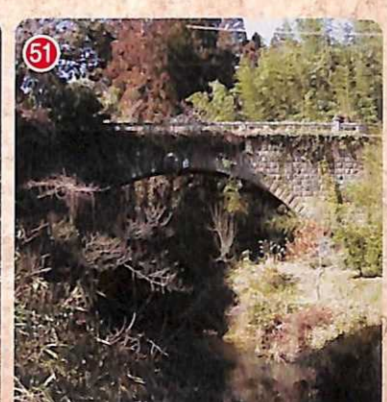
42 中臣神社の神木アカガシ
樹高18m、胸高幹周465cm、枝張り南北22mを測る。南北朝時代の大夫氏の墓とされています。総高98cm、応安元(1368)年の銘は北朝元号を使用しています。



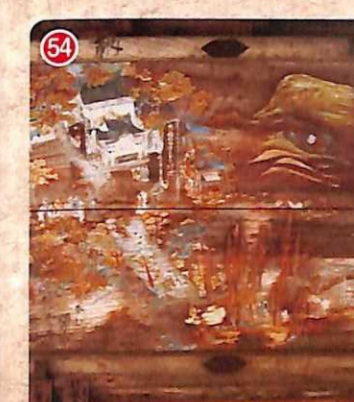
45 大應寺の無縫塔
南北朝時代の大夫氏の墓とされています。総高98cm、応安元(1368)年の銘は北朝元号を使用しています。



48 田北氏宝塔
覚勝寺を建立した筑前立花城主、田北益益の墓と伝えられています。基礎に元龜2(1571)年の銘が確認できます。



51 樺木の阿南橋
石造単一アーチ橋で橋長28m、幅員5mを測ります。規格の整った石材を整然と積み、布積みと呼ばれる技法を用いた黒内第1号の石橋です。



54 来針神社社馬
即願寺紫陽の手による天井絵馬と馬頭絵馬です。馬頭絵馬は縦1.2m、横1.98mの規模で祭りの様子等がよく表現されています。



57 柏野石幢
重厚で大型の石幢で、塔身に永禄6(1563)年の銘があります。基礎に元龜2(1571)年の銘が確認できます。

国指定文化財一覧表

<3件>

- 1 大科社の大スギ
湯布院町川南
- 2 旧日野医院本館・病棟・離れ
湯布院町川西
- 3 絹本著色放牛光林像
挾間町挾間



オンセンミズゴマツボ
淡水温水中(36℃前後)に生息することが確認される世界唯一の種で、日本固有種。由布市のごく一部でしか生息が確認されており、絶滅が危惧される。

県指定文化財一覧表 <18件>

- | | | |
|----|---------------|------------|
| 4 | 由布院キリシタン墓群 | 湯布院町川上 |
| 5 | 佛光寺六地藏石幢 | 湯布院町川北 |
| 6 | 岳本のコナラ原生林 | 湯布院町川上 |
| 7 | 由布川峡谷 | 挾間町朴木・内成・詰 |
| 8 | 板碑 | 庄内町測 |
| 9 | 石幢 | 庄内町長野 |
| 10 | 笠塔婆 | 庄内町柿原 |
| 11 | 宝塔(二基) | 庄内町大龍 |
| 12 | 宝塔及び五輪塔(七基) | 庄内町龍原 |
| 13 | 宝塔及び五輪塔群 | 庄内町龍原 |
| 14 | 祖霊廟宝塔 | 庄内町西長宝 |
| 15 | オダニの車橋 | 庄内町様木 |
| 16 | 慈航寺宝塔 | 挾間町篠原 |
| 17 | 石造五輪塔(三基) | 挾間町挾間 |
| 18 | 狭間氏五輪塔群 | 挾間町鬼崎 |
| 19 | 北原石造無縫塔 | 挾間町鬼崎 |
| 20 | 内成・田代のオトメクジャク | 挾間町内成・田代 |
| 21 | オンセンミズゴマツボ | 湯布院町川上 |



市指定文化財一覧表 <51件>

- | | | |
|----|---------------------|-----------|
| 22 | 若杉のケヤキ | 湯布院町川上 |
| 23 | 並若天満社のタブノキ | 湯布院町川上 |
| 24 | 嶽雲庵の六地藏 | 湯布院町川上 |
| 25 | 天祖神社のスギ | 湯布院町川上 |
| 26 | 佛山寺のイチョウ | 湯布院町川上 |
| 27 | 佛山寺のツバキ | 湯布院町川上 |
| 28 | 源氏蛭の生息地 | 湯布院町川上 |
| 29 | 香椎荘の宝塔 | 湯布院町川上 |
| 30 | 若宮八幡社のスギ | 湯布院町川上 |
| 31 | 佛光寺のイチョウ | 湯布院町川北 |
| 32 | 山崎愛宕様のムクロジとタブノキ | 湯布院町川南 |
| 33 | 西蓮寺のフジ | 湯布院町中川 |
| 34 | 奥江神社のイタヤカエデ | 湯布院町川西 |
| 35 | 奥江神社のコナラ | 湯布院町川西 |
| 36 | 湯平山神社のウラジロガシ | 湯布院町湯平 |
| 37 | 湯平田伏のスギ | 湯布院町湯平 |
| 38 | 田伏神社のアカガシ | 湯布院町湯平 |
| 39 | 畑蔵島神社のスタジイ | 湯布院町湯平 |
| 40 | 木造阿弥陀如来像及び観音・勢至菩薩立像 | 庄内町測 |
| 41 | 浄水寺の石幢 | 庄内町直野内山 |
| 42 | 中臣神社のアカガシ | 庄内町阿蘇野 |
| 43 | 天満神社の鯉口 | 庄内町測 |
| 44 | 天満神社の十一面観音像 | 庄内町測 |
| 45 | 大應寺の無縫塔 | 庄内町庄内原 |
| 46 | 摺原の宝篋印塔 | 庄内町高岡 |
| 47 | 高岡のキリシタン墓 | 庄内町高岡 |
| 48 | 田北氏宝塔 | 庄内町高岡 |
| 49 | 小挾間山神社のクロガネモチ | 庄内町小挾間 |
| 50 | 東大津留の宝塔二基 | 庄内町東大津留 |
| 51 | 様木の阿南橋 | 庄内町様木 |
| 52 | 大分川の立木炭灰化木及び火砕流 | 庄内町様木 |
| 53 | 中畑石幢 | 挾間町田代 |
| 54 | 来鉢神社絵馬 | 挾間町来鉢 |
| 55 | 皇産霊神社参道 石畳・石段 | 挾間町北方 |
| 56 | 海老毛横穴古墳群 | 挾間町挾間 |
| 57 | 柏野石幢 | 挾間町向原 |
| 58 | 鬼崎スガメ石橋 | 挾間町鬼崎 |
| 59 | 鬼崎磨崖仏第1号 | 挾間町鬼崎 |
| 60 | 鬼崎磨崖仏第2号 | 挾間町鬼崎 |
| 61 | 向日向遺跡の日向弥生式土器 | 陣屋の村歴史資料館 |

- | | | |
|----|---------------|-----------|
| 62 | 朴木旧庄屋高札 | 陣屋の村歴史資料館 |
| 63 | 山石原の禽獣供養塔 | 湯布院町川上 |
| 64 | 後藤家文書 | 個人蔵 |
| 65 | 宮崎家文書 | 個人蔵 |
| 66 | 甲斐家文書 | 個人蔵 |
| 67 | 高岡の田北文書 | 個人蔵 |
| 68 | 永慶寺の茶釜 | 寺宝(一般非公開) |
| 69 | 庄内神楽 | |
| 70 | ゆふいん源流太鼓 | |
| 71 | 加藤正人氏関連民謡調査資料 | 個人蔵 |
| 72 | ゆふいんの庭入り | |

凡例

- 国指定文化財
- 県指定文化財
- 市指定文化財
- ★ 陣屋の村歴史民俗資料館
- ☐ 写真あり

注意事項

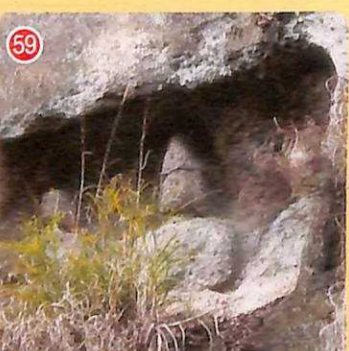
- 文化財を探訪する時は安全等に十分留意し、環境美化に配慮してください
 - 文化財にはできるだけお手を触れないようにお願いします
 - 以下の条件に一つでも該当するものは文化財の所在地を番号表示しておりません
- 一般非公開または随時鑑賞できないもの
所在地が立寄り困難、或いは周辺に危険箇所等があるもの
希少種であるもの

お問い合わせ先

由布市教育委員会社会教育課文化振興係
〒879-5498
由布市庄内町柿原302番地
(由布市役所庄内庁舎3階)
☎097-582-1203



鬼崎スガメ石橋
橋長約5m、幅員1.9mを測る単アーチ橋です。19世紀に架橋されたとも言われ、九州でも極めて古い部類に属します。



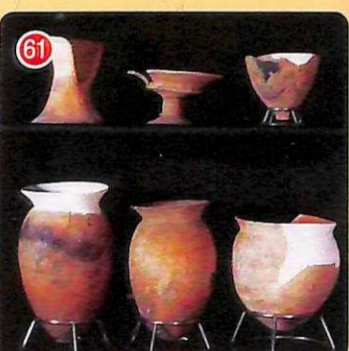
鬼崎磨崖仏第1号
地上約4mの高さに岩窟があり、3体の磨崖仏があります。作成年代は不明で、風化が著しくもわかりません。



鬼崎磨崖仏第2号
第1号から右手、やや下がった位置に第2号があります。2体の磨崖仏と1基の宝塔が確認できます。長さ169cm、幅ごちらも作成年代、署名など不明です。



向日向遺跡の日向弥生式土器
昭和25(1950)年、挾間地区の挾間中学校校庭整備の際に遺跡が発見された。壺・高杯・壺など多くの土器が発掘されました。



朴木旧庄屋高札
天和2(1682)年、奉行から出された「定」を府内藩各所に掲げたものの一つです。長さ169cm、幅49cm、厚さ2cmを測ります。



山石原の禽獣供養塔
山石原の旗師、七草子次郎左衛門が約2000頭の命を断ったことの悔恨と供養の思いから文化7(1810)年に建立したと記されています。



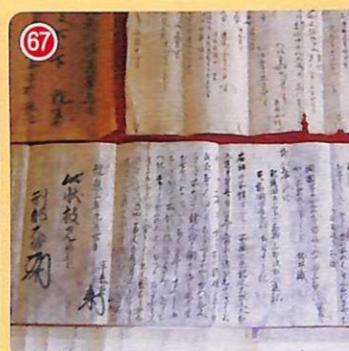
後藤家文書
元禄12(1699)年から寛政12(1800)年までの総数44点を数える庄屋文書です。水路関係など当時の農村生活の一端を垣間見ることができる史料です。



宮崎家文書
慶長19(1614)年から慶應4(1868)年までの21点を数える庄屋文書です。初瀬井路関係の史料が多く含まれます。



甲斐家文書
長禄2(1458)年から元和8(1622)年までの68点を数える古文書群です。大友義隆・大友宗麟の文書も確認できます。



高岡の田北文書
鎌倉・室町時代から江戸時代にかけての71通もの古文書です。大友二代親秀の七男、親泰が田北氏の始祖で大友家との深い関係が窺われます。



永慶寺の茶釜
『鎌子録』の記録から、戦国時代以前の作成点を数える意匠庄屋文書です。初瀬井路関係の史料が豊富に含まれます。

23 並若天満社のタブノキ
樹高24m、胸高幹周380cm、枝張り25mを測る古木です。枝葉を乾燥して粉にしたものをタブ粉といい、線香などの粘結材として利用されます。

25 天祖神社のスギ
樹高35.5m、胸高幹周495cm、枝張り東西16mを測ります。金鱗湖の湖畔に位置し、地元の方々が大切に保護しています。

26 佛山寺のイチョウ
イチョウには雌雄がありますが、佛山寺には2本並んで仲良く育っています。雄株の樹高は22m、雌株の樹高は18mを測ります。

28 源氏蛭の生息地
津江川・湯の坪川周辺は源氏蛭の生息に適した地で、豊かな自然の象徴である源氏蛭の舞う光が人々を和ませます。

30 若宮八幡社のスギ
樹高29m、胸高幹周480cm、枝張り東西14mの大木です。若宮八幡社の本殿西側に位置しています。

34 奥江神社のイタヤカエデ
樹高18m、胸高幹周260cm、枝張り南北16mを測ります。イタヤカエデとしては比較的大きく容姿も立派で、境内南側に位置します。

35 奥江神社のコナラ
樹高24.5m、胸高幹周300cm、枝張りは南北16mを測ります。ホウソといわれることもあります。神社境内の東側に位置しています。

38 田伏神社のアカガシ
アカガシとしては比較的高い所に位置します。樹高16m、胸高幹周380cm、枝張り南北15mを測ります。

39 畑蔵島神社のスタジイ
樹高15m、胸高幹周450cm、枝張りは南北13mです。この種の樹木は病害虫に弱いので、これほど成長したものはとても貴重です。



庄内神楽
庄内神楽は阿蘇野・中臣・竹の中・庄内原・瓜生田・雲取・小野屋・平石・子供・義草・様木・大龍の12の神楽座で構成されています。動きが早くて勇ましく、囃子も賑やかなのが特徴です。



ゆふいん源流太鼓
戦後に断絶していた節奏を保持し復元。保存を行うかたわら全国各地で披露、海外で公演するなど、国際交流の面でも活躍されています。